

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人愛広会	代表者	池田 弘	法人・事業所の特徴	開設から6年目を迎えました。令和5年12月1日より看護小規模多機能型居宅介護に事業所移行致しました。事業所名も新たに「ナーシングケアとよさか」と変更し、気持ちも新たにスタートしています。同グループの尾山愛広苑や新潟リハビリテーション病院の協力を得ながら、皆様が住み慣れた地域で安心して過ごす事ができるよう支援させていただきます。
事業所名	ナーシングケアとよさか (旧リビングサポートとよさか)	管理者	和田 美恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	1人	1人	1人	1人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・意見が多く出されるようになってきている為、共有して改善に活かしていく。	・意見や疑問点など多く上がるようになり、現状や結果等を申し送りノートで共有を行っている。	・今年度の開催は1回であったが、毎回可否連絡を入れ、議事録を配布している。	・全職員が『共有』を念頭に置き、様々なツールを最大限活用し確実に実行できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	・事業所内の消毒を日常化し、日頃から蔓延防止を意識した対応を取る。整理整頓を行い、誰もが気持ちの良い環境を作っていく。	・毎日の消毒を徹底している。玄関には毎月ご利用者の作品を飾り、誰もが気持ちの良い環境作りを行っている。	・看護小多機に移行した事により、重度者を受け入れられる設備が整えられると受け入れの幅も広がると思います。	・看護小多機移行に伴い研修を実施し、物品等も含め安心安全に過ごせる環境を整備する。
C. 事業所と地域のかかわり	・コロナも落ち着いてきている為、地域行事への参加等で交流を図る。又、運営推進会議等で情報交換をさせて頂く。	・感染症等の流行で地域の方との日常的な交流は難しかったが、地域行事の駅前植栽に参加させて頂き交流の機会が持てた。	・看護小多機に移行した事を地域の方が利用しやすいように発信して欲しいと思います。 ・PRしないともったいない。	・看護小多機に移行し、どのような方が利用できるのか地域行事への参加や広報等を活用し伝えていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・次年度の4月は花見の外出行事を計画した。今後もコロナ前のように皆様に喜んで頂ける外出の機会を増やして行く。	・お花見行事はドライブ3コースを設け、ご利用者に選んで頂きながら出かけ喜んで頂きました。他月にも外出行事を実施しています。	・自宅でのごみ捨てが困難な利用者には自治会長へ話を通し、指定日以外での支援を行っている。これからも地域資源を活用していくと良いと思う。	・重度化した方にも楽しんで頂ける行事の企画や、地域資源を活用してできる事を増やして行く。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・メンバーの皆様より、安心してご参加頂けるよう消毒等、環境を整えていく。地域の方との関りをコロナ前のように広げていく。	・初回のみで開催となり、自己紹介と館内見学を行った。議事録により館内行事や地域行事等の意見交換を行う事ができた。	・感染症流行の影響があり、会議が開催されず残念です。開催するときには是非都合をつけて参加したいと思います。	・開催時には改めて看護小多機の紹介や説明を行い、情報交換や交流を深めたい。
F. 事業所の防災・災害対策	・訓練実施後に不備の確認を行い、必要時には改善を行っていく。各災害による避難場所等の確認を行い更新していく。	・確実に行えるよう説明をしながら訓練を行った。実践訓練も行い不備が明らかになった為その改善を行っている。	・重度化した方も安全に避難できるようにして頂きたいと思います。	・実践訓練を通して見えてくる課題がある為、各種災害想定の実践訓練を中心に行い、課題を解決していく。

